

小森耳鼻咽喉科医院だより

VOL.6



ご挨拶

小森 貴



春先は、入学、入社、退社、転勤、転校など人生におけるいろいろのイベントがあり、喜んだり、悲しんだり、様々な人生模様を見せてくれる季節です。こうしたイベントが皆様の人生にとって、プラスに作用し、決してマイナス面に働かないことを祈るばかりです。

しかし稀には、これらのイベントが通学拒否とか、通勤拒否とかのマイナス面として作用してしまうことも事実です。ここではそうした傾向が見えたとき、家族がどう対応するのが事態を悪化させないことに通じるのかの基本的な事項を述べてみたいと思います。

通学拒否や通勤拒否は、最初は体の不調を理由とすることが多いということをまず、知っておいていただきたいと思います。一度休むとずるずると通学や通勤をいやがるようになったら要注意です。体の不調を理由にしているので、ついその不調を治すための病医院を探しがちですが、この時点で、精神科とか心療内科とかの専門医に相談してみることがです。本人がいやがることもありますので、その際には家族が出向いて「症状」を説明して指示を仰ぐべきでしょう。

そして、家族の対応として最も大切なことは、学校や職場に行くことを無理強いしたり、非難したりしないことです。じっくりと本人の言い分を聞いてあげることが大切です。

最新耳鼻咽喉科トピックス

味覚障害

味覚のおかしな人が老若男女を問わず随分増えているそうです。食生活、ストレス、環境などさまざまな原因が影響しているようですが、便利で忙しくなった社会の宿命なのかもしれません。

味覚障害の歴史をみると戦後健康保険が登場、だれでも受診できるようになった時期に、病気のお年寄りがたくさん薬をもらうようになって「味がわからない」と訴える人が出てきたのでした。味そのものを感知する味蕾（みらい）は舌や上顎に点在し、その部分の細胞は特に新陳代謝が盛んです。細胞をつくるタンパク質や核酸の合成には亜鉛が必要なのですが、亜鉛はほかの物質と化合物をつくりやすく、葉に含まれる成分と化合物をつくってしまう結果、味蕾細胞には亜鉛がまわらず、味の蕾（つぼみ）は文字どおりしぼんで味覚障害が起きたのだらうと考えられています。

その後もこのお年寄りの味覚障害は続いて見られるのですが、近年、若い人の味覚障害が問題になってきました。友達と食事をしていて、『どうも自分は味音痴らしい』と気づいて受診するケースがほとんどなのですが、そんな若い男女がここ10年々増えているのだとか。

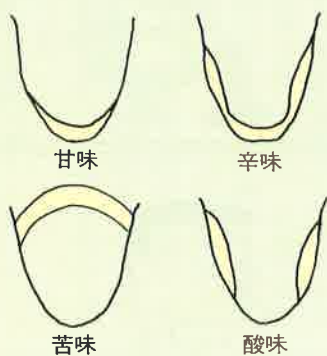
まず考えられた原因が亜鉛不足で、この若者達は、日本の食卓に当たり前だった海藻、小魚、しいたけ、カキなどという亜鉛を含む食べ物を、ほとんど食べて

いなかったのです。これでは細胞の新陳代謝は妨げられ、味蕾は機能しなくなってしまう。

この若者たちの責任というよりは、彼らに食事を与えてきた母親に原因があるといえそうです。でも彼女たちはその母親からすでに洋風の食事を教えられ、食事を手抜きするようになったのも、自分のためというより、車や家電製品をそろえ、家のローンを払い、そのうえに教育費が重なったりして仕事に出なければならなかったためで、責められません。

さらに、少しは亜鉛を含む食品をとっているらしいのに味覚障害を訴える若者については、ファーストフードやレトルト食品に含まれる食品添加物が疑われます。これらの成分がせつかくの亜鉛と化合して、老人の場合と同様の現象を引き起こしてしまうでしょう。

舌の表面と味覚を感じる位置



スタッフ紹介

駒井 美樹 (婦長)



皆様にお会いして8年になります。忙しい日々ですが毎日楽しく働いています。これからも多くの事を学び、一日一日を大切にしていきたいと思っています。皆様よろしくお願ひします。

村沢真佐代



昨年の5月に就職したばかりの新米です。午前中は仕事、午後は看護学校にいます。まだまだ分からない事ばかりですので、先輩から教えて頂きながら、一生懸命がんばります。よろしくお願ひします。



- 診察科目 耳鼻咽喉科、気管食道科 手術および入院設備有り
- 診療時間 月曜～金曜/AM 8:30～12:00 PM 1:30～5:30
土 曜/AM 8:30～12:00 PM 1:30～3:00
日・祝祭日休診

金沢市橋場町3番9号 TEL.0762 (21) 5027

小森耳鼻咽喉科医院

